

**被災構造物の復旧性能評価研究委員会**  
**H18年度 「WG3：補修・補強後の性能評価」 第9回議事録（案）**

日時：2007年3月6日（火）15:00～17:40

場所：（社）日本コンクリート工学協会 会議室

出席者：小林（幹事：JR 東日本）、滝本（清水）、藤永（神戸大）、堺（土木研）、稲熊（JR 東海）、鈴木（大阪大学名誉教授）、伊藤（中部大）

（欠席者：河野（竹中工務店）、勝俣（大林組）、宗（ショボント）

**資料**

- No.3-9-1 WG3 第8回議事録（案）（小林幹事）
- No.3-9-2 被災構造物の復旧性能評価研究委員会 H18 年度第2回拡大幹事会議事録（案）（小林幹事）
- No.3-9-2-1 被災構造物の復旧性能評価研究委員会目次（案）（小林幹事）
- No.3-9-3 4.1 被災構造物の補修方法の留意点（宗委員：欠席）
- No.3-9-4 4.1.2 被災構造物の鉄筋残留ひずみ除去方法（小林幹事）
- No.3-9-5 4.2.1 補修後構造物の剛性評価に関する既往の研究（滝本委員）
- No.3-9-6 4.2.2.2SRC・RC 骨組および RC 柱の実験（藤永委員）
- No.3-9-7 4.2.3.1 実構造物の柱部材を用いた補修効果の確認実験（稲熊委員）
- No.3-9-8 4.2.3.2 損傷度をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
- No.3-9-9 4.2.3.3 繰り返し回数をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
- No.3-9-10 4.2.3.4 補修材料をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
- No.3-9-11 4.2.3.5 大変形領域の交番載荷荷重により損傷した RC 柱の補修効果（小林委員）
- No.3-9-12 4.3.1 ファイバー解析による補修後 RC 柱の検討（堺委員）
- No.3-9-13 4.3.2 ファイバー解析による補修後 SRC 部材の検討（藤永委員）
- No.3-9-14 4.3.3 部材モデルを用いた補修後 RC 柱の検討（小林幹事）
- No.3-9-15 4.3.4 部材モデルを用いた RC 柱のプッシュオーバー解析による検討（稲熊委員）
- No.3-9-16 4.3.5FEM 解析による補修後 RC 梁の検討（伊藤委員）
- No.3-9-17 4.4 補修後 RC 柱の動的挙動に関する検討（ファイバー解析）（堺委員）
- No.3-9-18 4.4.\* 補修後の剛性低下を考慮した時刻歴応答解析（藤永委員）
- No.3-9-19 4.5 補修構造物の性能評価における今後の課題（伊藤委員）
- No.3-9-20 図表番号、文献番号等（田嶋先生のメール）（小林幹事）
- No.3-9-21 シンポジウム開催候補日（田嶋先生メール）（小林幹事）

**【議事内容】**

1. WG3 第8回議事録（案）（小林幹事）
  - ・ 前回 WG の議事内容を説明。内容の承認を得た。
  
2. 被災構造物の復旧性能評価研究委員会 H18 年度第2回拡大幹事会議事録（案）（小林幹事）

- ・ 拡大幹事会で議論された今後のスケジュールを報告した。
  - 3月14日 拡大幹事会
  - 3月26日 全体委員会
  
- 3. No.3-9-2-1 被災建造物の復旧性能評価研究委員会目次（案）（小林幹事）
  - ・ 拡大幹事会で議論された全体目次案と報告書の作成状況を報告した。
  
- 4. No.3-9-3 4.1 被災建造物の補修方法の留意点(宗委員：欠席)
  - ・ 宗委員担当の報告書の原案。(宗委員欠席)
  - ・ 前回，WG3での議論を踏まえて，断面修復に関するコメントを追記されている。
  - ・ 報告書の内容としては，最終版。
  
- 5. No.3-9-4 4.1.2 被災建造物の鉄筋残留ひずみ除去方法（小林幹事）
  - ・ 内容的には，ほぼ最終版。
  - ・ 現場での管理方法について，コメントできる範囲で追記する。
  - ・ 表題で誤植を修正。
  - ・ 参考文献の空欄部分を追記する。
  
- 6. No.3-9-5 4.2.1 補修後建造物の剛性評価に関する既往の研究（滝本委員）
  - ・ 内容的には最終版。
  - ・ 報告書内で，「ひび割れ剛性」との表現を「ひび割れ後剛性」に修正する。
  - ・ 「まとめ」の見直しをする。
  - ・ 参考文献 [16] について，鈴木先生の日本語の文献名を追記する。
  
- 7. No.3-9-6 4.2.2.2SRC・RC 骨組およびRC 柱の実験（藤永委員）
  - ・ 完成版となっている。
  - ・ 全体目次（案）を表題のように変更する。
  
- 8. No.3-9-7 4.2.3.1 実建造物の柱部材を用いた補修効果の確認実験（稲熊委員）
  - ・ 写真，図等の追記を行い，完成版となっている。
  
- 9. No.3-9-8 4.2.3.2 損傷度をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
  - ・ 写真，図等の追記を行い，完成版となっている。
  
- 10. No.3-9-9 4.2.3.3 繰り返し回数をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
  - ・ 写真，図等の追記を行い，完成版となっている。
  
- 11. No.3-9-10 4.2.3.4 補修材料をパラメータとした柱部材の補修効果の確認実験（稲熊委員）
  - ・ 写真，図等の追記を行い，完成版となっている。

- 1 2. No.3-9-11 4.2.3.5 大変形領域の交番載荷荷重により損傷した RC 柱の補修効果 (小林委員)
- ・ 補修方法の追記を行う (帯鉄筋, エポキシ樹脂の柱表面のコーティング)
  - ・ 番号を再整理。
  - ・ 掲載論文の文献を追記する。
- 1 3. No.3-9-12 4.3.1 ファイバー解析による補修後 RC 柱の検討 (堺委員)
- ・ 内容的には完成版。
  - ・ 解析対象とした実験結果の記述には, 詳細に関しては 4.2.3.5 を参照する旨の記述を追記する。
  - ・
- 1 4. No.3-9-13 4.3.2 ファイバー解析による補修後 SRC 部材の検討 (藤永委員)
- ・ 内容的には完成版。
  - ・ グラフで解析と実験の区別を明確になるように修正する。
- 1 5. No.3-9-14 4.3.3 部材モデルを用いた補修後 RC 柱の検討 (小林幹事)
- ・ 補修後解析で初期剛性を 20%低減した結果が降伏時の割線剛性の 20%程度剛性が落ちているか確認する。剛性低下の度合いが実験結果と相違する場合は, 再度解析を行う。
  - ・ 解析対象とした実験結果の記述には, 詳細に関しては 4.2.3.5 を参照する旨の記述を追記する。
- 1 6. No.3-9-15 4.3.4 部材モデルを用いた RC 柱のプッシュオーバー解析による検討 (稲熊委員)
- ・ 内容的には完成版。
  - ・ 図 4.3.4.2 で補修後解析時の解析モデルを一部修正する。
- 1 7. No.3-9-16 4.3.5FEM 解析による補修後 RC 梁の検討 (伊藤委員)
- ・ 内容的は完成版。
  - ・ 図-4.3.5.3 の「初期載荷」を「初回載荷」に変更。
- 1 8. No.3-9-17 4.4 補修後 RC 柱の動的挙動に関する検討 (ファイバー解析) (堺委員)
- ・ 内容的は完成版。
  - ・ 表題を 4. 4 から, 4. 4. 1 「ファイバー解析による補修後 RC 柱の動的挙動に関する検討」に変更する。
  - ・ 解析モデルを追記する。
- 1 9. No.3-9-18 4.4.\* 補修後の剛性低下を考慮した時刻歴応答解析 (藤永委員)
- ・ 質点系モデルでの解析結果。
  - ・ 報告書にまとめる。
  - ・ 表題を 4. 4. 2 「補修後の剛性低下を考慮した 5 層建物の動的挙動に関する検討」に変更する。
- 2 0. No.3-9-19 4.5 補修構造物の性能評価における今後の課題 (伊藤委員)
- ・ 各委員からの随時メールで今後の課題を小林幹事に送信していただき, 小林幹事でまとめる。

- ・ 各節で記入された今後の課題も含めて、包括的にまとめる。

2 1. No.3-9-20 図表番号, 文献番号等 (田嶋先生のメール) (小林幹事), No.3-9-21 シンポジウム開催候補日 (田嶋先生メール) (小林幹事)

- ・ 田嶋先生からのメールを報告した。

2 2. その他

- ・ 今回が WG3 として最終になる。
- ・ 次回拡大幹事会は3月14日 17:00～の予定なので, 3月12日までに原稿ファイルを小林幹事まで送付する。
- ・ 全体委員会は3月26日 16:00～